

令和元（2019）年度 栃木県浙江省友好交流員レポート（12月分）

栃木県浙江省友好交流員 橋本和加子

●中国の年末年始

日本の年末年始は、クリスマスから年明けまで何だかんだと忙しい気がしますが、『旧正月』（旧暦のお正月）がメインの中国ではまったくと言って良いほど変わりがありません。クリスマスの雰囲気は、ホテルのロビーやショッピングモールの広場にクリスマスツリーなどが飾られる他、スーパーなどで少しクリスマス用品が売られているくらいです。日本や他の海外のように家を電飾で飾るようなことは禁止されていると聞きました。12月31日の大晦日は“学生节”と言って浙江大学の学生はお休みになります。翌日の元旦もお休みですが、1月2日から通常通り授業が始まり、翌週には期末テストがあるので、この2日間も特別な活動はなく勉強に勤しむ予定です。

●浙江省自然博物館

杭州市内の西湖文化広場という場所には、浙江省博物館や科学博物館など複数の施設があり、その中に浙江省自然博物館もあります。いずれも入場無料の施設で、日々、老若男女たくさんの方が気軽に訪れて楽しんでいる様子です（入る時には安全のため空港にあるような機械に荷物を通す検査と金属探知の枠を通る身体検査を受けます）。

博物館は写真の建物の中の1階から3階にかけてあり見応え充分です。

1階は臨時展示場となっていて期間毎に様々な展示をしているようです。私が行った時は《カンブリア紀大爆発と雲南からの例》という題で、カンブリア紀の生物の化石の展示をしていました。2階は常設展示で『地球生命故事陳列』というコーナーで地球誕生から生命の誕生、恐竜時代、哺乳動物の時代という順序で学べる仕組みになっています。3階も常設展示で『綠色浙江陳列』コーナーでは、浙江省の自然に関する展示（右下写真はその一部）が、『豐富奇異的生物世界陳列』コーナーでは、世界各地（例えば熱帯地域、南極地域、荒漠地域など）に生きる動物が、地域の様子をそのまま現す形（左下写真）で展示してあります。



『豐富奇異的生物世界陳列』の様子



『綠色浙江陳列』の様子

それぞれのコーナーに、さらに知識を深めるための設備も設置されています（壊れたまま放置されているものもいくつかありましたが）。



タッチパネルで動植物の詳細がわかります。



人類が動物に与える影響を表現した展示

この他にも、自分がハンドルを動かすことで磁場がどのように変わるのか、星の動きがどのようにになっているのかなどがわかるよう工夫が凝らされており、大人も子供も楽しめる博物館です。

●千島湖（チェンダオフー）

12月上旬、杭州市の他の地域の自然を感じたいと思い、杭州市内から西へ130 kmほどの場所にある国家AAAAA級風景区（観光区）の【千島湖】に行ってきました。

【千島湖】発電所を建設した時にできたダム湖で湖の中に1078個の島があることが名前の由来。湖底には2つの城郭都市遺跡、8個の鎮と39個の郷が沈んでいます。

門票(入場料)150元 船代60元 梅峰島ロープウェイ往復60元（いずれも大人料金）



上の写真は千島湖の中にある【梅峰島（メイフォンダオ）】の展望台から撮影したもので、「この眺めを見ずして千島湖に行ったと言うべからず」と言われる名勝です。

今回は杭州市内から中国の旅行会社の日帰りツアーを利用して行きました。往復バス移動でガイドがつくため、便利で心配は少ないと思っていましたが、やはり現地の方の話言葉はとても速

く、杭州市内の話や日常的なことは聞き取れましたが、ことわざや現地の言い伝え、専門用語などが入ってくると聞き取るのが難しく、大切なことを聞き逃さないよう必死でした。また、最初にバスに乗り込む際の参加者の確認の仕方が電話番号下4桁であることも驚きました。何をするにも電話番号の登録が必要な中国を実感しました。

当日はとても良い天気にも恵まれ、最高の旅行日和となりました。現地に到着すると、現地ガイドの案内で、すぐに船に乗り湖上を移動し、最初の島【月光島（ユエグワンダオ）】へ。

【月光島】は4つの島を橋で繋げた場所で、1つ1つの島は小さいけれど静かで緑豊かなところでした。



風もなく最高の船旅日和でした。



【月光島】では橋を歩いて次の島へと渡ります。

約2時間を【月光島】で過ごし、再び船で【梅峰島】へ移動してロープウェイで山の上へ登り、千島湖を上から眺めました（最初のページの写真）。

時期的に咲いている花はほとんどありませんでしたが、日本にもあるトベラを見られました。

そしてこの地の標識にも日本語がありました。ここまで来る日本人が結構いるということなのでしょう。



トベラ：中国語では海桐花（ハイトンホワ）



5カ国語の注意標識

今回のツアーでは、バスガイドと現地ガイドの2人に会うことができ話を聞きましたが、ガイドになるには旅行関係の学校で学び、国家試験に合格しなければならないとのこと。2人とも何でも知っていてソツなく業務をこなしている姿は素敵で、私も頑張ろうと刺激を受けました。